

平成27年度第1回北海道地方独立行政法人評価委員会
試験研究部会 議事録

- 開催日 平成27年4月22日(水) 15:30 ~ 16:40
- 場所 北海道庁本庁舎9階 職員監会議室
- 出席者 (委員) 北野部会長、安達委員、有賀委員、関委員、籾本委員
(事務局) 総合政策部科学IT振興局研究法人室 田中室長、寺前参事、樋口主幹ほか
- 議事 (1) 年度及び中期目標期間評価作業スケジュールについて
(2) 平成26年度評価について
(3) 中期目標期間評価について
(4) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構第二期中期目標、第二期中期計画及び平成27年度計画について
(5) その他
- 資料 資料1 評価委員会試験研究部会26年度評価及び中期目標期間評価作業スケジュール(想定)
- 資料2-1 地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度評価実施要領
- 資料2-2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度評価実施要領の平成26年度項目別評価の視点
- 資料3-1 道総研中期目標期間評価実施要領の概要
- 資料3-2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構の中期目標期間評価実施要領(中期目標期間評価の視点、業務実績報告書の様式含む)
- 資料4-1 地方独立行政法人北海道立総合研究機構第二期中期目標の概要
- 資料4-2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構第二期中期計画の概要
- 資料4-3 地方独立行政法人北海道立総合研究機構平成27年度年度計画の概要
- 資料4-4 地方独立行政法人北海道立総合研究機構第二期中期目標・中期計画・27年度計画対比表
- 参考資料1 地方独立行政法人北海道立総合研究機構について
- 参考資料2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構中期目標・中期計画・26年度計画対比表
-

(事務局)

○開会

(田中室長)

○挨拶

本委員会に引き続き、試験研究部会に出席いただき、感謝申し上げます。

また、4月から新たに有賀委員、関委員にご就任いただき、感謝申し上げます。

道総研は、平成22年4月に22の道立試験研究機関を統合し、当時は1,200名体制と全国一の規模を持つ法人であり、先ほどの委員会で説明があったが、部会が年に4回程度と視察もあり、ご苦労も多いと思うが、よろしく願います。

第一期中期目標期間の5年間が終了し、この間、丹保理事長のリーダーシップのもと、道民生活の向上や道内産業の振興に向け、技術開発や技術支援に取り組んできたところ。

4月から第二期中期目標期間がスタートするが、道としては、本委員会の中間評価で「概ね順調」とされた第一期の取組をベースに、より一層総合力を発揮した研究開発に取り組むとともに、研究

成果や知見が道民生活や産業の現場でより一層活用されることが極めて重要と考えているところ。
評価委員会委員の皆様方におかれましては、道総研が地域の期待に応える北海道の総合的な試験研究機関として更なる躍進ができるよう、忌憚のないご意見はもとより、ご指導、ご助言を賜りながら、お力添えをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

(事務局)

- 本日の議事は、お手元の次第にあります、「(1)年度及び中期目標期間評価作業スケジュールについて」、「(2)平成 26 年度評価について」、「(3)中期目標期間評価について」、「(4)道総研第二期中期目標、第二期中期計画及び平成 27 年度計画について」の 4 件を予定している。

これらは、既に評価委員会で決定している案件ですが、今年度は 26 年度評価に併せて第一期中期目標期間評価があり、また、4 月からは第二期がスタートしていることから、今年度の評価の流れや第二期中期目標、中期計画などについてご説明させていただきます。

それでは、議事に入る前に、北野部会長から一言ご挨拶いただく。

(北野部会長)

●挨拶

委員の皆さまには、本日はお忙しい中、ご参加いただき感謝申し上げます。

試験研究部会は、今紹介がありましたように、節目に当たっており、1 期と 2 期の繋ぎ目であり、それぞれの年度評価、中期目標の評価をしなければならない状況である。

私どもは、単に意見を申し上げるだけでなく、できるだけ仕事がうまくいくように、我々も知恵を出し合ってみんなで道総研をもり立てていこうという文化、雰囲気があるが、一方で大変厳しく、差し戻したものもあるが、皆さんに率直にご意見をいただき、進めて参りたい。

今回 2 名の委員が就任されたが、前委員長がよくおっしゃられていたように、客観的かつ中立的であり、更に活発に道総研のためになるような、意見を委員の皆さまからいただきたいので、よろしくお願いする。

(事務局 寺前参事)

- それでは、これから先の議事の進行については、北野部会長にお願いする。

議事(1) 年度及び中期目標期間評価作業スケジュールについて

(北野部会長)

- 最初の議事である(1)「年度及び中期目標期間評価作業スケジュールについて」を事務局から説明願う。

(事務局)

- 資料 1、参考資料 1 に基づき説明
 - ・ 例年は、年度評価のみであるが、第一期期間終了に伴い、中期目標期間評価もお願いする。
 - ・ 道総研から 6 月末までに業務報告書の提出を受け、皆さまに資料を送付するので、内容の確認と追加資料等の要望をお願いし、道総研から回答を得た後にヒアリング項目を選定する。
 - ・ 7 月下旬の第 2 回部会は、2 日間の日程で開催し、1 日目は、各研究本部からの研究成果や第二期における重点的な取り組みなどをプレゼンいただき、2 日目は、業務実績ヒアリングにより自己点検評価を検証し、評価委員会で検討いただく。
 - ・ その結果を基に事務局で評価結果(素案)を作成し、8 月上旬に皆さまにご説明の上、必要に応じ評価結果の修正等を行い、評価結果(案)を取りまとめ、年度評価は 8 月中旬の第 3 回部会で年度評価を決定し、8 月下旬に開催予定の親会である第 2 回評価委員会に報告する。
 - ・ また、第一期中期目標期間評価結果は第 3 回部会で審議後に、第 2 回委員会で審議いただき、決定し、その結果を道総研に通知するとともに、9 月に開会する第 3 回定例道議会に報告する。

(北野部会長)

- 事務局から説明のありました件について、ご意見、ご質問があればお願いします。
試験研究部会の第2回及び第3回の日程に具体的な日付が記載されているが、今後調整ということでしょうか。

(事務局)

- 表の括弧内は昨年度の実績であり、日程は今後調整させていただく。

(北野部会長)

- 中期目標期間評価は今回初めての業務であるが、分量的には中間評価と同程度と考えてよいか。

(事務局)

- 基本的には同じくらいと考えている。
資料3-2に業務実績報告書の様式を添付しているが、年度評価と一体の様式としており、年度評価と目標期間評価の内容が重なるものが多いと思うが、それぞれヒアリングを項目を整理して実施し、中間評価と同様の分量でできないかと考えている。

(北野部会長)

- スケジュール感は、昨年度と同様のようなのであるが、中間評価とほぼ同じと考えてよいか。

(事務局)

- 一緒にやっていくように考えている。

(有賀委員)

- ある日突然大量の資料が送られてくるのか。

(事務局)

- 例年道総研から6月下旬に業務実績報告書が出てきて、年度評価結果としてまとめるものであり、それと併せて目標期間評価をまとめることとなる。
122項目について道総研で自己点検・評価を行うので、評価委員会でそれを点検いただき、評価することとなる。
- 道総研では、大きく分けて研究開発と技術支援、数値目標を用いて外部資金を獲得するものなどがあり、122項目あるがメリハリを付けながら評価いただいている。

議事(2) 平成26年度評価について

(北野部会長)

- 次に、議題(2)「平成26年度評価について」事務局から説明願う。

(事務局)

- 資料2-1及び2-2に基づき説明
 - 評価基本方針において、年度評価は、項目別評価と全体評価により実施し、項目別評価は、法人が行う自己点検・評価結果を踏まえ行い、全体評価は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務実績全体について記述式により総合的に評価するもの。
 - 方針に基づき、試験研究部会で定めた年度評価実施要領において、法人の項目別実績は4段階評価とし、総括実績は業務全体及び特記事項を記述式により記載するとしている。
また、評価委員会評価は、法人の「自己点検・評価」結果を踏まえ、ヒアリング等により実施状況を確認し、「自己点検・評価」の妥当性を検証し、5段階評価を行うもの。
全体評価は、項目別評価結果を踏まえ、業務実績全体について記述式で評価を行う。
 - 主なスケジュールは、先ほど説明したとおり。

- 26年度評価の視点は3月に開催した部会で決定済みであり、当該項目が適切に実施されているかどうか、件数や取組内容などにより確認している。

(北野部会長)

- 事務局から説明のありました件について、ご意見、ご質問があればお願いします。

(関委員)

- 評価委員会では、26年度計画の評価の視点を基に評価すればよいのか。

(事務局)

- 今後、実績報告書が提出されるので、全部の項目を同じように見るのではなく、メリハリがあるが、ここに記載されている視点を基に適切に実施されているか確認いただく。

議事(3) 中期目標期間評価について

(北野部会長)

- 次に、議題(3)「中期目標期間評価について」事務局から説明願う。

(事務局)

- 資料3-1及び3-2に基づき説明
 - 評価の方法は、評価委員会が行う項目別評価と全体評価により実施し、項目別評価は、法人の自己点検・評価の結果を踏まえ、達成状況を調査・分析の上、評価し、全体評価は、項目別評価結果を踏まえ、業務実績全体を記述式により総合的に評価を行う。
 - 評価作業は、資料3-2の3ページにあるように、法人が中期計画の122項目を自己点検・評価し、その後、中期目標評価の26項目を評価し、評価委員会は、法人の自己点検・評価結果の妥当性を検証するとともに、評価委員会評価項目の7項目について評価する。
 - 法人の評価基準は、年度評価と同様の4段階、総括実績は、5年間の業務全体の実施状況や特記事項について記述式により記載する。
 - 評価委員会の評価の方法は、項目別評価は、法人の自己点検・評価の妥当性を検証し、その検証を踏まえ、中期目標を中間期間評価と同様の7項目ごとに5段階で評価する。
全体評価は、項目別評価結果を踏まえ、中期目標期間の法人の業務実績と、目標期間終了時の達成状況について、総合的な評価を記述式により記載する。
 - また、別に定めることとしている評価の視点は、資料3-2の4ページのとおり。
 - 法人の業務実績報告書の様式は、26年度と第一期中期目標期間の実績報告書は、一体の様式とし、項目別実績は、法人点検項目の26項目ごとに作成し、5年間の主な実績、代表的な取組や、重要意義を有する取組など記載いただくとともに、4段階の自己点検評価結果を記載いただく。
 - なお、スケジュールについては、先ほど説明した26年度評価と同様。

(北野部会長)

- 事務局から説明のありました件について、ご意見、ご質問があればお願いします。

(事務局)

- 補足であるが、実際に実施した内容や目標に対する達成状況は法人から提出されるので、疑問点等について質問いただくもの。
既に中間評価で「概ね順調」との評価もいただいております、その上での5年間の評価となるもの。
- 年度評価については、項目ごとの割合で評価しているが、目標期間評価も同様。

(関委員)

- 私は今年委員になったばかりで中期目標の全般の部分はよく分からないが、法人の自己点検評

価の報告を見て、評価することや意見を出すということによいか。

(事務局)

- 資料をご覧いただき、説明が足りないところなど自由闊達なご意見をいただければ大変ありがたい。

(有賀委員)

- 基本は、自己点検を見てそのとおりと分かればよいが、分からないところやもう少し知りたいことがあればヒアリングするということがか。

(事務局)

- 質問を出していただければ、法人に確認し、さらに必要であればヒアリングを行い、議論を深めるもの。

(関委員)

- 私は共同研究や試験をお願いしており、それを踏まえ私なりにご意見を申し上げられればと考えていたが、今の説明だと計画に対する評価のみを行えばよいのか。

(事務局)

- 評価委員会としては事後チェックが法律上の権限であるが、将来のために道総研にとって良いこととなるご提言もいただければありがたい。

(北野部会長)

- 冒頭にも申し上げたが、本委員会は外形的に「○」や「▲」で評価する部分もあるが、こうした方がよいと思うことは道や法人に聞いていただき、法人のよりよい運営に生かされていくことも役目と考えている。

議事(4) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 第二期中期目標、第二期中期計画及び平成27年度計画について
--

(北野部会長)

- 次に、議題(4)「地方独立行政法人北海道立総合研究機構 第二期中期目標、第二期中期計画及び平成27年度計画について」事務局から説明願う。

(事務局)

- 資料4-1~4-4に基づき説明
 - ・ 中期目標は、北海道が、道総研に対して、5年間の業務運営に関する目標を指示するもの。道の計画等を考慮するとともに、「中期目標達成状況等評価」を踏まえて検討し、評価委員会において「概ね順調」とされた第一期の取組をベースにより一層総合力を発揮して研究を進めるとともに、研究成果等が道民生活や産業の現場で一層活用されるよう、策定したところ。第一期中期目標からの主な変更点は裏面に記載のとおりであり、「数値目標の設定」は、全て法人の中期計画で設定することとし、「第4-1 財務の基本的事項」は、第二期では、研究職員の人件費や研究費などの研究関連経費を前年度比1%縮減する効率化係数の対象から外すこととした。
 - ・ 中期計画は、中期目標を達成するため、道総研において策定したもの。基本的な考え方は、中期目標を踏まえ、第1期をベースに、総合力を発揮して研究を進めるとともに、研究成果が道民生活や産業の現場で一層活用されるよう、取組方法や数値目標を設定した。主なポイントは、総合力を発揮して取り組む研究分野として、「食」、「エネルギー」及び「地域」を重点領域として設定し、研究開発を戦略的に展開するなどとしているところ。数値目標は、第1期実績を踏まえ必要に応じ見直しを行い、高すぎや低すぎとならないよう留意し、10の指標を設定、運営支援費は、中期目標で、研究関連経費を対前年度比1%縮減の効率化係数の対象外としてお

り、第2期中期目標期間の道からの運営支援費は約658億円。

道総研から2月25日付けで認可申請があり、本部会での審議を経て、3月27日付け認可した。

- 年度計画は、道総研から3月27日付けで届け出があったところ。

計画期間は、平成27年度中、計画の主な事項は、中期計画と同様の項目立てとしている。

戦略研究は、「食」、「エネルギー」及び「地域」に係る3課題を実施するとともに、重点研究24課題、経常研究233課題を実施する。

研究成果の発信は、研究成果発表会や企業向けセミナー、研究会等の開催などを行い、研究成果の普及は、技術資料等の発行や刊行物等のホームページ等での公表とともに、展示会等への出展により、研究成果や知見をPRする。

知的財産の管理は、特許等の知的財産権は適切な管理を行うとともに、権利化に適さない技術についてもノウハウ化して適切に管理する。

総合的な技術支援は、技術相談や技術指導、依頼試験や設備使用等を実施する。

連携の推進は、道総研プラザを活用した共同研究の実施などに取り組む。

評価委員会で議論があった研究職員の評価制度は、研究職員に係る自己申告の機能を強化する。

(北野部会長)

- 事務局から説明のありました件について、ご意見、ご質問があればお願いします。

(有賀委員)

- 先ほどの小学生向けの理科のイベントのサイエンスパークは、発信としているのか、普及としているのか。

(事務局)

- 5ページの広報機能の強化の中に入っている。

(有賀委員)

- 広報と発信は分けが難しい。

(事務局)

- 重なる部分がある。3ページに研究成果の発表という項目もあるが、道民向けは広報として整理している。

議事(5) その他

(北野部会長)

- 最後に、議事(5)「その他」として、本日の全体の審議を通じて何かありませんか。

～ 意見等なし ～

(北野部会長)

- それでは、これをもちまして試験研究部会を終了します。